

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】（小学校用）

都道府県名	長崎県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	崎戸町立崎戸小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	12
児童数	11	16	24	14	14	14	1	94	

II 研究の概要

1, 研究主題

「学ぶ喜びを味わわせる，授業づくり・環境づくり」 ～算数科を中心とした，個に応じたきめ細やかな指導をめざして～
--

2, 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

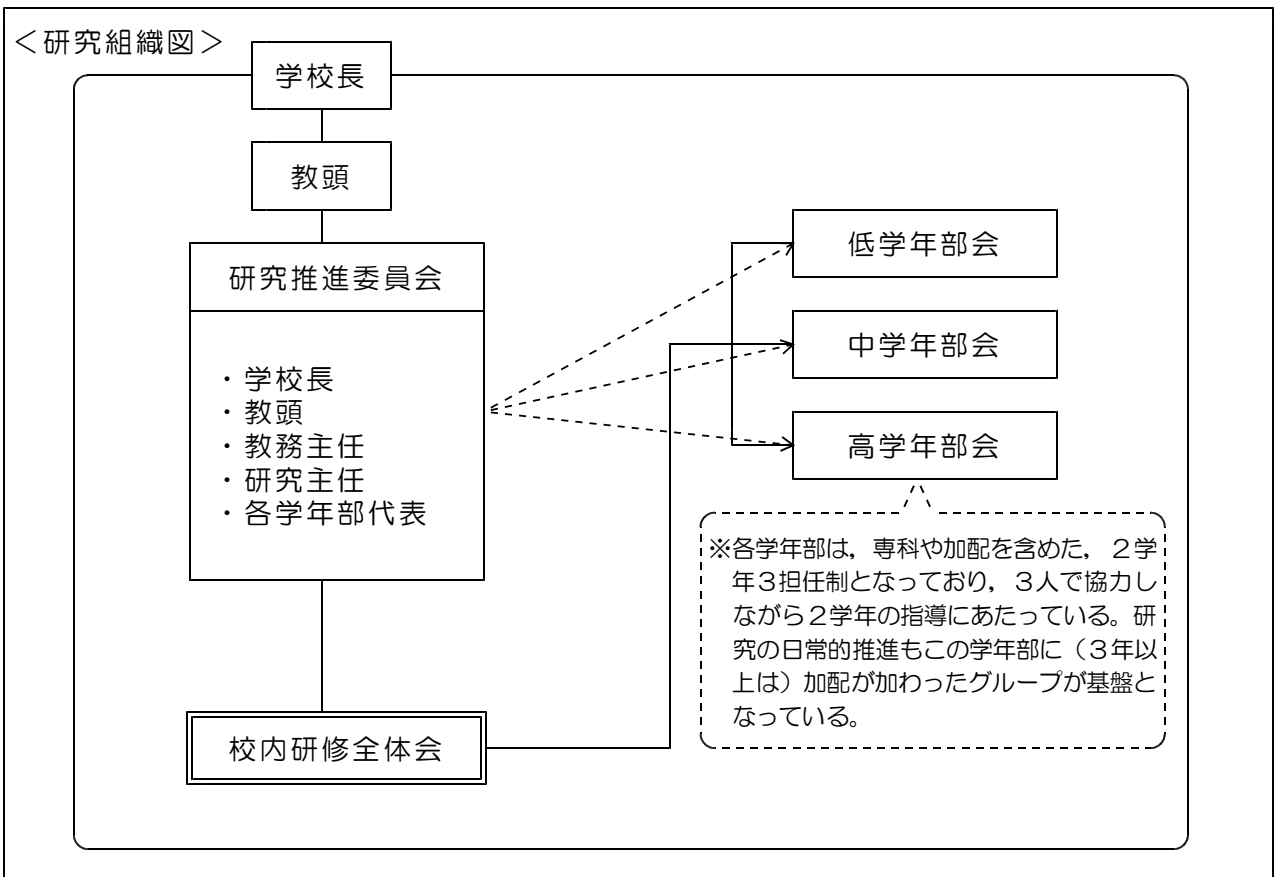
<ul style="list-style-type: none"> ・全学年・算数 ①本校児童の実態（算数科の学力の定着度の低さ）から，算数への取組が不可欠であると考えたため。 ②算数が，児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>○テーマ 「学ぶ喜びを味わわせる，授業づくり・環境づくり」 ～児童理解を基盤とした，個に応じた指導体制・指導方法の模索～</p> <p>○研究の見通し（仮説） 児童一人一人に応じた指導のために下記の点に留意した研究を進めていけば，児童は，学ぶ喜びを味わい，確かな学力を身に付けていくであろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①子どもの心を動かす，分かる・楽しい授業づくり ②個々の子どもの思いに応じる少人数・TT指導のあり方 ③様々な角度からの実態把握・児童理解 ④発展的・補充的学習ができる環境づくりの工夫 <p>○研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究主題，研究仮説の設定 ・週時程，時間割の見直し ・指導形態（TT指導，少人数指導，習熟度別学習）の理論研究及び授業実践 ・授業過程「問題解決型学習」「習熟型学習」の理論研究と実践 ・「ほっとタイム」「ステップタイム」の実施及び教材の作成 ・「ほっとルーム」の設置・運営 ・家庭学習（1問学習）のあり方の研究・実施・教材作成 ・学習のきまりの研究 ・評価のあり方の研究 ・児童の学力の実態把握 ・児童の意識の実態把握 ・中間指導と授業研究
--------	---

平成 16 年 度	<p>○テーマ 「学ぶ喜びを味わわせる，授業づくり・環境づくり」 ～個に応じたきめ細やかな指導体制・指導方法・環境の確立～</p> <p>○研究の見通し（仮説） 児童一人一人に応じた指導のために下記の点に留意した研究を進めていけば，児童は，学ぶ喜びを味わい，確かな学力を身に付けていくであろう。 ①子どもの心を動かす，分かる・楽しい授業づくり ②個々の子どもの思いに応じる少人数・TT指導のあり方 ③様々な角度からの実態把握・児童理解 ④発展的・補充的学習ができる環境づくりの工夫 ⑤指導と評価と環境の一体化の工夫</p> <p>○研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究主題，研究仮説の修正・確立 ・週時程，時間割の見直し ・指導形態（TT指導，少人数指導，習熟度別学習）の理論の見直し（確立）及び授業実践 ・授業過程「問題解決型学習」「習熟型学習」の理論の見直し（確立）と実践 ・「ほっとタイム」「ステップタイム」の見直し及び実施 ・「ほっとルーム」の見直し及び設置・運営 ・家庭学習（1問学習）のあり方の見直し（確立）・実施 ・学習のきまりの確立と実践 ・評価のあり方の研究 ・指導と評価と環境の関連性を明確にしていく研究 ・児童の学力の実態把握及び向上と変容の考察 ・児童の意識の変容の考察 ・中間指導及び研究の公開とまとめ
--------------------	--

（3）研究推進体制



Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(児童の変容)

- 算数科において、指導体制や指導方法の工夫・改善を行ったことにより、
 - ・「授業がとっても楽しくなった、楽しくなった」と答えた児童が95%、
 - ・「授業がとっても分かりやすくなった、分かりやすくなった」と答えた児童が94%を超えるなど、「学ぼうとする力」(意識面)での変容を確認できた。

○また、

- ・既習事項に意識を向け、問題解決に生かそうとする意識が高まってきた
- ・学習の流れを理解し、自信を持って授業に取り組む児童が増えた
- ・分からないとき、自分の方からきちんと質問できる児童が増えた

など、「学ぶ力」の変容もはっきりと見て取れた。

(教師の変容)

- 一番の変容は、本研究を組織的に捉えるということが全職員の意識の中に浸透してきたことだと思う。本研究は、到底一人の力では成し得ない研究である。研究を進める中で、お互いに意見を出しながら、共通理解を図り、学力向上を図るにはどうしたらよいかを真剣に考え、実践につなげるようになってきた。
- 指導体制や指導方法を工夫した実践を重ねることで、授業の流れや児童の実態に応じた指導パターンをつかみ、共有することができた。
- 発展・補足的な学習に取り組める環境や、児童が喜んで授業に取り組めるための生活基盤・学習基盤を整え、その有効性を確認することができた。

2. 今後の課題

○児童の学力の「向上」「定着」をめざし

- ・「各学年で身につけさせたい力」を明らかにし、共通理解を図る
 - ・年間を見通し、学力の定着を確かなものにするための指導計画づくりを図る
 - ・本年度試した研究実践を、より有効な実践に絞り込み、それらの関連性を明確にする
 - ・家庭・地域との連携をより密にする方法を探る
- などの研究・実践が必要である。

Ⅳ 学力把握のための学校としての取組

○児童意識調査

(目的) 児童の学習及び学習環境に対する意識の向上や変容を把握し、研究に役立てる

(内容) 学習(教科, 方法, 体制)や環境への意識をアンケート形式で実施

(時期) 毎学期

○生活アンケート

(目的) ①児童の基本的な生活習慣確立への意識を高める

②基本的な生活習慣と学力との関係を調べる基礎資料とする

(内容) 基本的な生活習慣に対する自己評価

(時期) 毎月

○学力検査

(目的) 児童の学力の向上や変容を把握し、その後の指導, 研究に役立てる

(内容) 市販の学力検査を使用(国語・算数)

(時期) 年2回 4月(国語・算数)

2月(算数)

V フィロンティアスクールとしての研究成果の普及

<研究会>

- 大島崎戸合同研授業交流会
(日時) 平成15年12月5日(金)
(会場) 崎戸小学校
(対象) 崎戸町・大島町教職員

- 大島崎戸合同研授業交流会――予定――
(日時) 平成16年2月17日(火)
(会場) 崎戸小学校
(対象) 崎戸町・大島町教職員

- 来年度中に2回程度の授業交流会開催予定
○研究発表会開催予定(1月下旬～2月上旬予定)

<フロンティアティーチャーとして>

- 崎戸町教職員研修会
(日時) 平成15年8月28日(木)
(会場) 崎戸町中央公民館
(対象) 崎戸町教職員

- 崎戸大島合同研発表会
(日時) 平成16年2月13日(金)――予定――
(会場) 大島町民文化ホール
(対象) 崎戸町・大島町教職員

<HP>

- 作成に向けて準備中, 時期は未定

◇次の項目ごとに, 該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの新規校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無